2019 年 12 月 24 日（火）

未来への扉

県立高等特別支援学校支援部 127 号

残暑きびしい中に始まった２学期も、早いもので終業式を迎えました。

今回は、幾つかのＱ＆Ａをご紹介したいと思います。これまで大切に育ててこられた保護者様には、「そうだったなぁ」「こんな対応をやってみようか」と思っていただけたらと思います。

また、あくまで例として掲載させていただいていますので、必ずお子様に当てはまる訳ではありません。本校には経験豊富な先生方が大勢いらっしゃいますので、ご相談いただけたらと思います。

なお、Ｑ３～Ｑ６につきましては、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「発達障害教育推進センター」Web サイトの内容を転載（転載年度：令和元年度）しています。また、編集の関係上、表記の一部を変更しています。

Ｑ１．思っていることを何でも口に出してしまう。

Ａ．幼児の頃は、相手の思い、感情、コンプレックス等を考慮せずに、思ったことをそのまま口にしてしまうことがあります。これは、相手の思いや状況に自分を置き換えて考えることや、相手を怒らせてしまったことの意味をとらえることが苦手なのかもしれません。不適切な発言がみられたときには、その場で、もしくはできるだけ直後に、相手を怒らせることはいけないことであることを教え、相手がどんな気持ちになったかを一緒に考えるようにしましょう。

Ｑ２．声をかけても聞いてくれず、（用事などを）最後までやりとげない。

Ａ．こちらの声かけを聞いていないということも十分考えられるため、話を聞いているかどうかを確かめる。うなずいたりするために理解しているものと思ってしまうことがありがちです。しかし、意外に分かっていない場合があるため、具体的に何をさしているかを理解しているかどうか確認することも必要になります。

また①１回で一つの指示をするようにする。②具体的な行動を示すようにする。以上のように、指示は１回で一つが原則。１回に複数の指示では、どれか一つだけに反応したり、混乱してどれにも反応しなかったりしてしまいます。ですから「ちゃんと着替えて、脱いだものは片づけなさい」という指示では、脱ぎっぱなしになってしまう。原則でいえば、「着替えなさい」そして「片づけなさい」という声かけになりますが、毎回この状態では面倒。ですので、「ハンガーに制服をかけなさい」という指示だと一度で済みます。このように効率のよい指示を工夫しながら、本人に分かりやすいものにしていくことがポイントなります。

Ｑ３．落ち着きがないことが心配。

Ａ．落ち着きのない行動には様々な理由が考えられます。触ってみたい、逃げ出したい、わからない、もっと注目して欲しいなど。危険な行動はすぐに止める必要はありますが、行動の理由を考えて対応します。困っている時には、ただ叱ったり注意したりしても効果はありません。まず気持ちを受け止めます。どうすればよいのかわからない場合は、具体的に話します。約束やルールを「〇〇しましょう」と具体的に紙に書くのも良いと思います。落ち着きがない子どもはどうしても叱られることが多くなります。落ち着いている時にほめることも大切です。

Ｑ４．少し注意をするだけで反抗的になる。

Ａ．思春期になると、急に口数が減り親への態度が反抗的になることがあります。こうした子どもの様子は成長過程の１つですが、親などの大人からの関わりに過敏に反応する子どもがいます。こうした子どもは、これまで周りから注意されたり、叱責を受けたりした経験を繰り返してきたことにより、わずかな注意を受けただけでも反抗的になることがあります。こうした経験を積み重ねると、子どもは自分を嫌いになり、さらには自分が居てはいけない存在であると感じるようになります。注意をしたからといって、自分の努力だけではどうにもならないこともあります。お子さんに注意をするよりも、小さなことでも本人のよさを見つけたり、少しでもよい方向に努力したり、さらには努力する意欲を見せるだけでもほめることが大切です。これによって、お子さんは自分のことが少しずつ好きになり、自分が変われるかもしれないという希望をもてるようになります。また、お子さんの反抗的な態度を助長しないために、親御さんが感情的にならず冷静に対応することが必要です。

Ｑ５．毎月の小遣いを渡しているが、渡すとすぐに使い切ってしまう。

Ａ．子どもが自分でお金の管理をできるようになることは、社会人になる準備として大切なことです。もらった小遣いを使い切ってしまう理由には、親が稼いだお金をもらっているという自覚がないことや、自分が欲しいと思ったものを衝動的に購入してしまうことなどが挙げられます。高等部になると友達との付き合いが増えたり、電車通学の場合には最寄り駅周辺の店に立ち寄る機会が増えたりします。お子さんが浪費をしてしまわないように、小遣い帳をつけさせるのも一つの方法。細かく支出の内訳を記入することが難しい場合は、ノートなどにその日のレシートを貼り付けるだけでもＯＫ。計画的に小遣いを使用できたかを確認して、次の小遣いを渡すようにしましょう。また、学級担任に同級生などとの交友関係について聞いてみることも必要です。

Ｑ６．忘れ物が多いことが気になる。

Ａ．持ち物を間違えずに用意する、用意したものを忘れず持って行くためには、まわりの人たちも確認のための声をかけるなどして意識づけをすることが大切です。持ち物リストの活用なども有効。用意ができたらチェックをつけ、大人の人に確認してもらいます。はじめは大人がリストを作成しますが、少しずつ自分でも作れるように教えていきます。持ち物が多いときは、大きな袋やバッグにすべて入れるようにします。また、家なら玄関に、学校なら机の横など、用意ができたら気づきやすい場所にいつも置くようにします。

裏面へつづきます。

いかがでしたでしょうか？少しでも参考になれば幸いです。

　三田でもインフルエンザが流行りだしているので、１月末の文化祭に向けて手洗いの励行などの予防も万全にしていきたいものです。
　行事の多い、忙しい２学期が終わりました。皆様、のんびりしたよいお年をお迎えください。

【参考サイト先】
　国立特別支援教育総合研究所
　　発達障害教育推進センター
　URL→ https://www.nise.go.jp/nc/